

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2005. 7. 10 No. 4

北海道ボランティア・レンジャー協議会

葉の形や構造を調べる

今回は「葉っぱ」をテーマにした観察会です。なにげなく見ている葉もよく観察すると、色々な表情を持っていますが、針葉樹を除き一般的に形は平たくて光を受けやすくなっています。これは、葉の最も大切な働きが光合成にあるところからきています。葉っぱの構造や形を観察するために必要な基本的な用語をまとめてみましたので参考にしてください。

・葉身

普通、緑色で扁平で、表皮と葉肉と葉脈から構成されています。

・葉脈

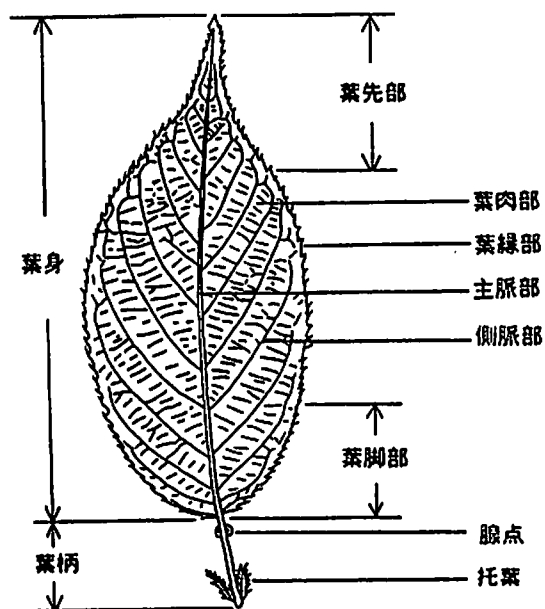
葉の中の維管束とよばれるところで、水分や同化物の通り道です。

・葉柄

葉身と茎をつなぐ部分で、水や無機塩類、同化物の通路になります。また、葉を光の方向に向ける働きや葉が重なり合うのを避ける働きをします。

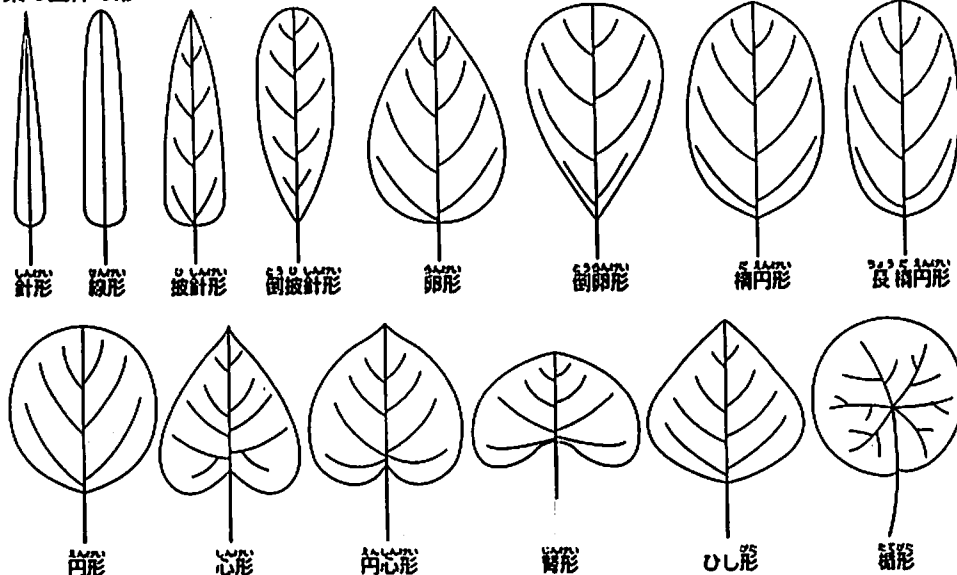
・托葉

葉柄の茎との付着点付近についている葉のようなもので、おもに双子葉植物に見られますが、これを持たないものや早く落ちてしまうものもあります。



普通葉の構造

葉の全体の形



ハシドイの花

ハシドイの花が咲いています。街路樹として植えられたりして、街中でも花をよく見ることがあります。5月中から咲き出す近樹種ライラック（ムラサキハシドイ）より咲く時期がおそく今ごろ円錐状の花を咲かせています。花の違いでは、ライラックは、花筒とよばれる花の首が萼よりはるかに長く、一方、ハシドイは花筒が萼より短いかすこし長い、とされています。

ハシドイの名のいわれは、初夏のこの時期に木の枝の先端に円錐状に白い花がたくさん集まってつくるところから「はしつどい」と呼び、それが「はしどい」になったのだと言われていますが、もともとは木曾地方の方言で、各地にはヤチザクラ（長野）、クソザクラ（山梨）、サワカバ（岩手）などの呼び名があります。

アイヌの人たちはこのハシドイを、パチパチはねながら燃えるので、プシニ（はねる木）と呼びました。また、30年たったら石にばけるといわれるぐらい腐らない木のためアイヌの人はチセ（家）の柱にしたそうです。

ハシドイはモクセイ科ハシドイ属ですが、世界にはライラックもいれて28種あります。材としてはロクロ細工などに使われています。



マダニに注意

森や林の散策から帰って、なんの気なしに体を触ってみると、ダニが皮膚に食いついていることがあります。ダニに取り付かれても痛くも痒くもなく、知らぬ間に吸血されていて、取り除くのに苦労された方もいて、昔からいやな物に例えられています。

ダニの仲間はクモやサソリの近縁者ですが、頭胸部と腹部は完全にゆ合っていて境界が見えません。体の前部に頭部のように見えるのは口器で、内方にある大あごは種類によって、はさみ状、かぎ状、きり状などさまざまです。

マダニの仲間は、春から秋に発生し、野山で人や動物からの吸血の機会をまっていますので、笹藪などで吸血されることがあり、ライム病などの病原体を媒介することがあるので要注意です。

この対策は、首筋や手首・足首から入り込まぬ注意や、肌などの露出をできるだけ避けることと、虫除けスプレーやメントールをつけておくことです。

8月の観察会は？

●「暑い夏の涼しい森を体験しよう」観察会

8月4日（木） 10:15～12:30 開拓記念館集合

樹木の葉は夏の日光を遮り気温を下げる働きをします。涼しい森の雰囲気を楽しむと共に夏の花や、野鳥の鳴き声の観察をしましょう。

●夏の樹林帯（手稲山山麓）観察会

8月20日（土） 8:30 屋置川乙女橋 集合

小樽支部主催の観察会です。申込み、問い合わせは 0134-27-1701 北原宅まで